

# 平成 30 年度 自己点検・自己評価公表シート

エクレスすみれ保育園

## 1. 本園の教育・保育目標

学園の建学の精神（わが学園は教育をとおして「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする）に基づき、「やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる」ことを教育・保育方針とする。

そのために次の 6 項目を保育目標とする。

①楽しい教育

②義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての子どもに対する教育及び保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行う。

③やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる。

④「こころ」「ことば」「あそび」「表現」の “ 4 つのつばさ ” を保護者と共に育てる。

⑤個を大切にしながら、自立の発達を促す教育と保育を進める。

⑥遊びと学びを通して基本的な生活習慣を身につけ、生きる力を育む。

## 2. 本年度の重点取り組み目標・計画

【0～2 歳児】

- ・保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係を築く。
- ・情緒の安定を計り、生活に必要な基本的習慣が身に付くようにする。

## 3. 学年別目標・計画

0 歳児	愛情豊かな保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で信頼関係の基礎を育てる。
1 歳児	子どもが健康で安全に生活できる環境を作り、保育士との信頼関係を深め情緒の安定を図る。
2 歳児	保育士と安定した関わりの中で、食事、排泄、睡眠、着脱等の基本的な生活習慣を自分でしようとする意欲を育て、身に付けられるようにする。

#### 4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<b>1. 保育目標の理解と周知</b> 保育理念、保育方針、保育目標について、保育士間の共通理解ができているか	学園の理念と学園目標は、週に1回唱和をし、周知することができている。また、全体会議や非常勤会議で、詳しく伝える場を設けたので、非常勤にも浸透することができた。
<b>2. 保育内容</b> 保育所保育指針の理解、指導計画の作成、保育の記録と次の指導計画への反映ができているか	指導計画は、保育指針を踏まえ、年齢に応じた園児の理解と発達状況に対応して作成ができている。日々の保育からの振り返りからの評価が不十分だった。子どもへの保育で、戸外への活動が十分に行うことができ、室内でもリズム遊びなど積極的に行うことができた。
<b>3. 保育環境</b> 園児の自発的な活動、ねらいを達成できる用具・材料の準備、教材・教具の適切な活用、園児の実際の行動に合わせた環境への配慮ができているか	教材・教具を適切に活用することができている。園児の自発的な活動を引き出し、ねらいを達成できる用具・材料を適切に準備し配置することができている。その教具を実践する保育士の学びにバラつきがあるので、次年度は学べる環境を作るようにしていく。
<b>4. 行事</b> ねらいを理解したうえで実施しているか 行事の種類や回数はてきせつか PDCA 体制をとっているか	0～2歳児という中での行事の回数としては、適切だった。行う「ねらい」についての共有が、不十分だったと感じるので、打ち合わせの際には、「ねらい」を共有した上で、進めるようにしていく。
<b>5. 食育</b> 保育の一部となるような活動を行っているか	無理のない形で、食育体験を年齢ごとに行うことができた。保育士と調理室とが、それぞれのクラスごとでコミュニケーションをとることができた。
<b>6. 職員の役割・資質向上</b> 専門家としての能力・良識・義務の適性、園児との共感、個の受け止め、能力の向上努力、他の職員との連携はできているか	日々の保育から保育所保育指針に結び付ける園内研修や、系列園の職員からモンテッソーリの学びを行うことができた。自己研鑽については、まだ足りていない部分がある。それぞれの保育経験年数に応じた学びの機会を次年度は作っていく。
<b>7. 特別支援教育</b> 当該園児についての情報の共有、家庭・医療・福祉等の関係機関との連携、特別支援についての理解を深めるための自己研鑽等ができているか	当該園児についての情報の共有については、共通理解のもと支援体制を整えることができた。医療・福祉との連携は、個々での連絡はできていたので、園全体への周知をもっと強化していきたい。職員の知識向上という点においては、外部の研修に参加し深めていくことができたが、参加できていたのが一部の保育士に偏ってしまっていたので、他の保育士にも参加できるように考えていきたい。
<b>8. 保健・安全指導</b> 避難訓練、交通安全指導の実施、健康・安全な生活の家庭への啓発、家庭・地域・関係機関との連携、施設・設備の安全点検の計画的な実施、アレルギー児への適切な対応ができているか	避難訓練は計画に基づいて実施することができた。 園舎・園庭の施設・設備の安全点検は、計画性を持って実施することができた。今年度は、心肺蘇生の研修を園内で行うことができた。次年度も継続して行っていきたい。健康・安全な生活に必要な習慣等の取り組みについては、園内掲示物やメール発信等を活用して実施できた。

評価項目	取り組み状況
<b>9. 保護者との連携・情報</b> 保護者と連携して、園児の情報を生かした保育を行っているか 園での事故・問題等発生時の保護者連絡、園情報の発信は適切か 保護者の園行事への積極的参加、園の教育・保育理解はできているか 保護者からの要望や意見に適切に対応できているか 守秘義務を厳守しているか	個人情報の取り扱いについては、法令順守の体制ができており適正に取り組むことができた。 園内外で発生した事案について、ヒヤリハットとして情報を職員間の共有を図ることができた。また、改善が必要なことに関しても、迅速に行うことができた。 保護者への園の情報は年間行事予定表・園だより・メール・ブログ等で発信しているほか、連絡帳や降園時に直接伝えることができた。また、保護者は保育参加を通して、園の保育の理解促進を行うことができた。
<b>10. 子育て支援</b> 子育て支援の取り組み、子育ての相談としての機関の実施ができているか	学園のリソースを活用したイベントや、絵本作家とのコラボイベントや、わらべうた体験など、様々な取り組みを行うことができた。 戸外では積極的に地域の方へあいさつをすることで、保育士へ子どものことや一時保育のことなどの相談を受けるようになった。
<b>11. 組織としての運営管理</b> 園内での職員の役割が明確であり、情報の共有ができているか 経験に応じた保育士の連携が取れているか	朝礼で、保育士が共有すべく大人の在り方を唱和することや、会議の中で組織としての役割についての共有をすることができた。パソコンを活用し、それぞれの役割に向けての情報発信を行うことができた。経験年数に応じた学びの場や話し合う場が持てるように会議や研修の方法を考えていく。
<b>12. 特徴的な教育</b> 系列園との連携はできているか 部門を超えての関わりを持っているか	積極的に系列園との関わりをもち、隣にある認定こども園へたくさん行き、交流することができた。次年度は、もっと自然な形で関わりが持てるように工夫していく。

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1. 保育内容	「子どもの発達の日安」を学び、理論を踏まえた実践が行えるようにしていく
2. 保育環境	教具の提示を学べる環境を作っていく
3. 職員の役割・資質向上	経験年数に応じた学びが得られる取り組みをしていく
4. 特別支援教育	たくさんの保育士が研修に行けるよう調整していく
5. 組織としての運営管理	経験に応じた役割の明確化、仕組みづくり

平成 31 年 3 月 1 日